



## 日本古来の自然農法で作った野菜づくりに挑む

### 日本豊受自然農

静岡県熱海市から車で約20分、山に向かうと広さ31反の函南農場に到着する。標高300m、右手には富士山が見え、左手には相模湾を見下ろす自然豊かな箱根連山の西麓に位置する。

この地で8年前から農業を営むのが農業生産法人日本豊受自然農の代表、由井寅子さん。由井さんはホメオパシーという自然療法の実践者として多くのクライアントを抱えるが、一向に改善が見られないケースがあった。検証した結果、食環境が原因であろうと考え、養分豊富な無農薬栽培の野菜を食べることを提案、アトピー症状に悩む子供の症状が改善された。由井さんは心の病気も食の乱れと密接な関係があり、健やかな野菜を食べることで、心身とも元気になるのではないかと考えた。自分が食べたいと思う安全な野菜を多くの人にも食べてもらいたいと8年前に函南町に1反8畝の畑を借りて農薬、化学肥料、除草剤一切不使用の野菜・ハーブ作りをスタートさせた。

#### 一人からのチャレンジ

東京で本業をしながら毎週、静岡の函南農場に通い続けた。頑張り続け2009年には農業生産法人の申請を行い、本格的な仕事として改めてスタートすることになった。

豊受自然農では、除草剤を一切使わないので、雑草も次から次に生えてくる。その都度雑草を取り除く作業が必要になる。

「化学肥料や除草剤、農薬を使うことで土の微生物バランスが崩れ、土が死んでしまう。作物の栄養価は生命力の反映であり、作物の生命力は土の生命力なのです」と由井さんは語る。手間暇かけて作った野菜は形や大きさがさまざま。でも、この野菜には懐かしい「匂い」がある。由井さんのこだわりはもう一つ。日本古来の固定種と自家採種のみしか使わないことだ。

#### 自家採種で栽培

今でこそ、農薬や化学肥料を使わないと謳う農家は全国で増

えているが、種については殆どF1種や遺伝子組換え種を購入している。F1種は人工的な掛け合わせにより作られた一代交配種。F1種の作物は生育が早く大きさも均一なので農家にとっては商品として扱いやすい。それが普及する理由だが、便利である反面、F1種の多くが雄性不稔と呼ばれるおしべのない奇形の遺伝子変異種であることも事実。

『タネが危ない』の著者で、種苗業を営む野口勲氏は、日本農業に普及するF1種が抱えるリスクについて警鐘を鳴らす。遺伝子異常の野菜を長年食べ続けた時、どのような影響が出るのかのリスクが軽視されていると憂慮する。日本豊受自然農は固定種を基に、手間暇をかけて自家採取した種のみで野菜を作っている。

現在は函南農場で20種類もの野菜を専門スタッフとともに作る。北海道の洞爺にも20反の農場を持ち、40種類のハーブを栽培している。「私たちの体を作るものは食べ物。ミネラル豊富



ハーブを採取する豊受自然農の農民の皆さん(前列中央が由井寅子代表)

で生命力に溢れた自然な野菜がなにより一番です。豊受自然農で作った安全で生命力にあふれ

た野菜とその加工品を多くの人に提供し、皆さんに健康になってほしい」と意気込む。

「今こそ、有事にそなえる 食、心、命 すべてにホメオパシー！」  
10/18(土)、19(日)東京商工会議所4F東商ホールにて、第15回日本ホメオパシー医学協会(JPHMA)コンGRESSが開催される。日本の災害や内乱などの有事の時に、いかにして生き抜いていくかをテーマに、各界からの来賓が発表する。由井寅子代表も、自然農の取り組みや、長期間持つ安全なレトルトの加工品などを備えていくための豊受の活動の実際を発表する。  
問い合わせ特設サイト <http://jphma.org/congress2014/>  
農業生産法人 日本豊受自然農株式会社  
<http://www.toyouke.com>